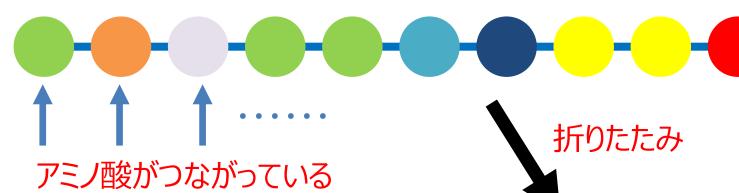
# AlphaFold2の使い方

文責:鳥取大学工学部·永野研究室·講師 佐藤裕介

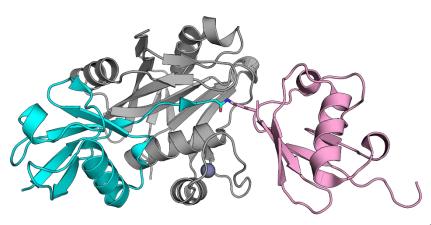
## 一本のタンパク質が折りたたまれることで 仕事ができるようになる



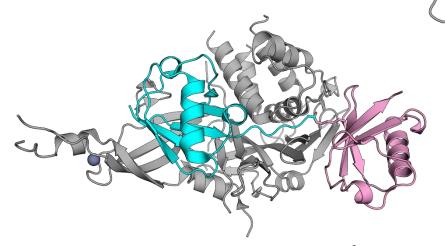
20種類の性質の違うアミノ酸 (図では色の違う丸で示した) が複雑に折りたたまれる事で、 自動的に1通りの立体構造を取る。 タンパク質ごとに長さが異なり、 だいたい300~1000程度の物が多いが、 最も大きいタンパク質では34350個の アミノ酸がつながっている(チチン)。

タンパク質の立体構造

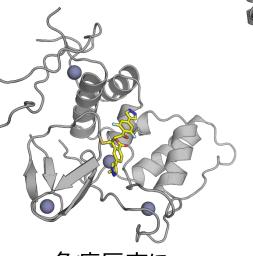
## 実際に構造が解明された様々なタンパク質



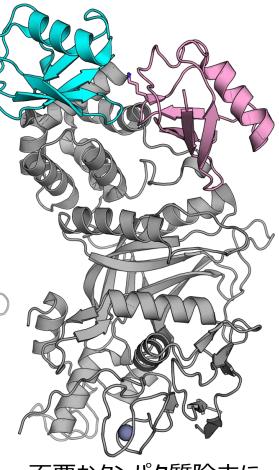
タンパク質の輸送に関与するタンパク質



アルツハイマー病に関与するタンパク質



免疫反応に 関与するタンパク質



不要なタンパク質除去に 関連するタンパク質

タンパク質の構造を観察することで、 タンパク質の機能を詳しく知ることができる

## タンパク質の構造を知るには

1958年にX線結晶構造解析という方法で、153個のアミノ酸がつながってできた、ミオグロビンというタンパク質の構造が世界ではじめて解明されました。

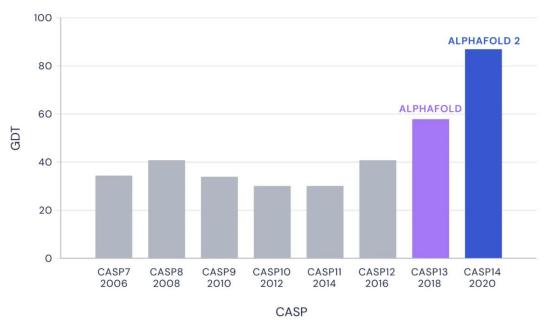
それ以来、アミノ酸がどのような順番でつながると、どのようなタンパク質の構造になるのか、という事がずっと研究されてきました。

ところが、50年以上研究されてきたにも関わらず、立体構造予測は極めて難しく、超高性能のコンピューターを使用してもほとんど成功していませんでした。

ミオグロビンの構造

#### 最近、DeepMind社によってAlphaFold2が開発された

※DeepMind社は囲碁棋士に初めて勝利した囲碁ソフトAlphaGoでも有名



https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2012/01/news053.html

しかし、2年に1回開かれるタンパク質構造予測のコンテスト(CASP)で2018年にAlphaFoldが、2020年にその後継のAlphaFold2がぶっちぎりの1位を獲得すると、事態は一変しました。

上の図では、棒グラフの高さが構造の予測の正確さを示していますが、 縦軸の90を越すと、ほぼ正確な構造と言えます。

AlphaFold2はついにほぼ正確な構造の予測に成功したのです。

#### AlphaFold2の使い方

AlphaFold2の予測結果を見るためには2つの方法があります。

# 1. AlphaFold Protein Structure Database (AlphaFold PDB)に掲載されたデータを見る

良いところ: DeepMind社がすで予測した構造情報が掲載されているので、自分で予測しなくてもすぐに予測結果を観察できる。ヒトやマウスなど、よく調べられる生物20種類のタンパク質はすべてデータがある。

悪いところ: あまり調べられる事のない(実験であまり使用されない)生物のタンパク質は掲載されていない。

#### 2. 自分でAlphaFold2を走らせる

良いところ: アミノ酸配列さえわかれば、タンパク質の構造予測が可能

悪いところ: 計算が必要なのでだいたい1~2時間程度かかる。

アミノ酸が1000個以上つながった大きなタンパク質では途中で計算が中止されて、まる東がある。

中で計算が中止されてしまう事がある。

#### 1. AlphaFold PDBの使い方

https://alphafold.ebi.ac.uk/ ↑のURLへ移動する

# ここにタンパク質名 AlphaFold を打ち込む tein Structure Database

Developed by DeepMind and EMBL-EBI							
Search for protein, gene, UniProt accession or organism  BETA  Search							
Examples:	Free fatty acid receptor 2	At1g58602	Q5VSL9	E. coli	Help:	AlphaFold DB search help	

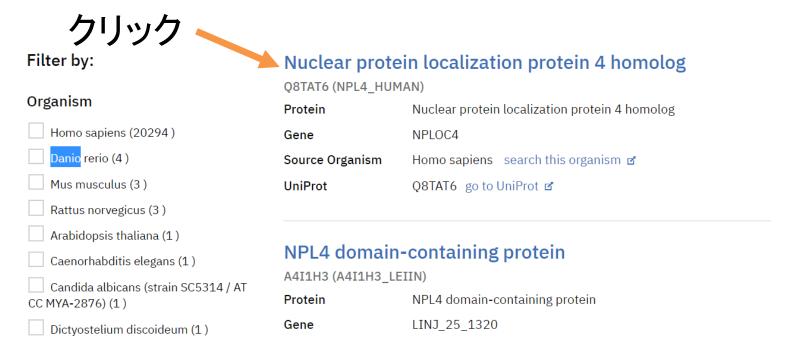
AlphaFold DB provides open access to protein structure predictions for the human proteome and 20 other key organisms to accelerate scientific research.

ヒトの5万種のタンパク質ほぼすべて+他の20種の 生物種の構造を片っ端から予測し掲載してある。

### 『Npl4 human』で検索した場合の例

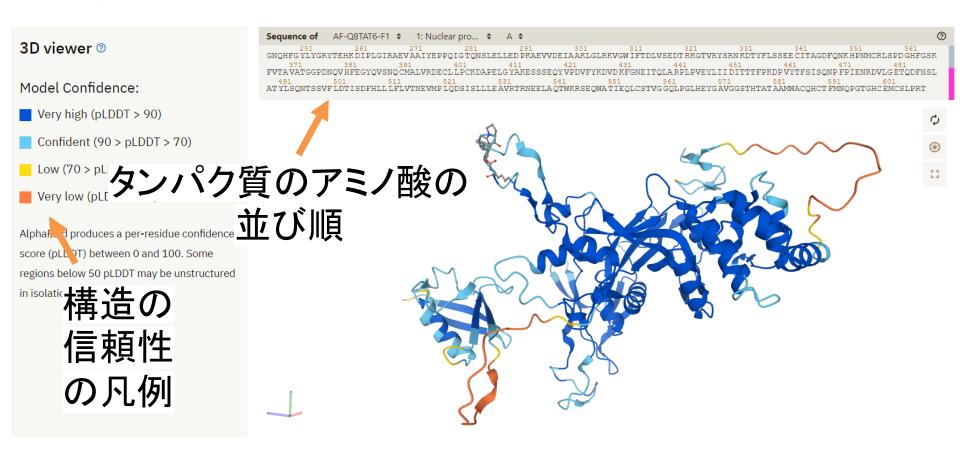
#### Showing all search results for Npl4 human

1 - 20 of 20313 results



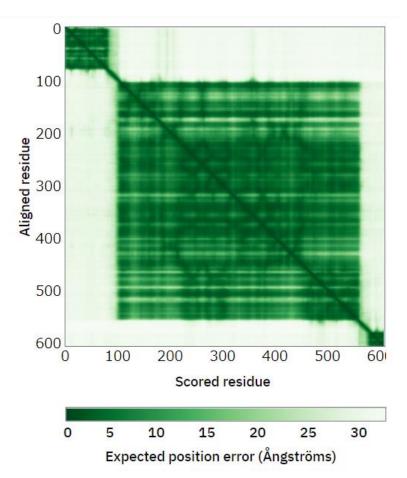
様々な生物種が登録されているので、 タンパク質名 + 生物種名 で検索するのが良い。 ここでは、ヒトのNpl4といいうタンパク質の構造を検索している。 自分でも興味のあるタンパク質の名前を検索してみましょう。

#### 構造の予測結果はすぐに見ることができる



構造を左クリックで回転、右クリックで移動、 ホイールで拡大・縮小ができる。

青いところは構造予測結果の信頼性が高いと考えられるところ、 オレンジのところは信頼性が低いと考えられるところ。

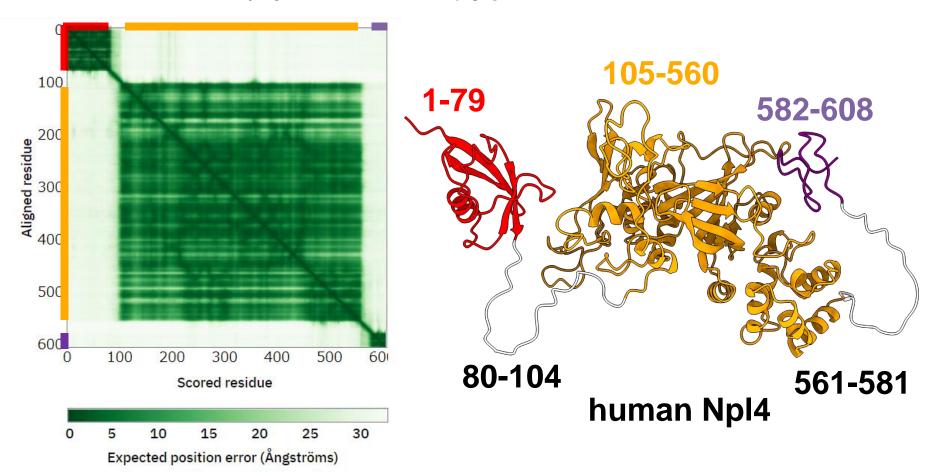


残基間の位置関係は Predicted aligned error (PAE)で その信頼性が予測されている。

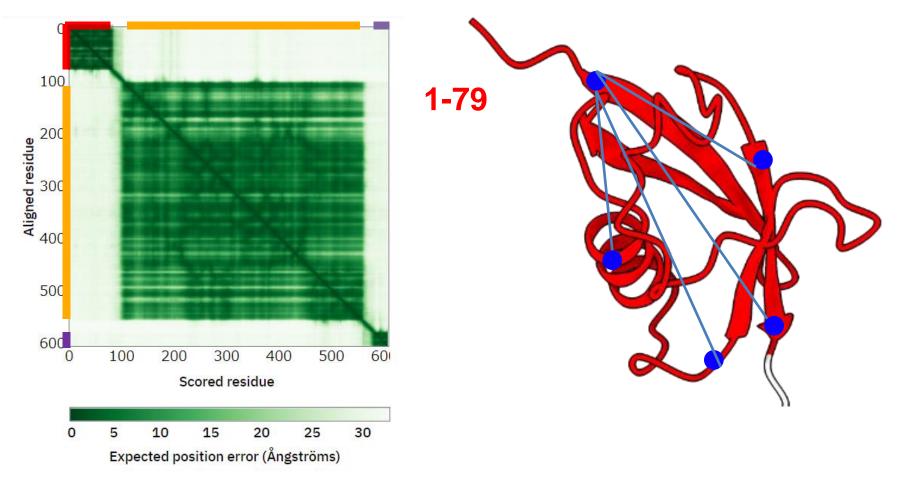
縦/横軸はともにタンパク質のアミノ酸番号を意味する。 x番目の残基とy番目の残基の位置関係のずれを予測している。

x = yの場合、位置関係は同じ場所に なるので、ずれるはずがない。 つまり、常に予測からのずれは 0 Åとなっている

大事なのは、x = yではないところの色

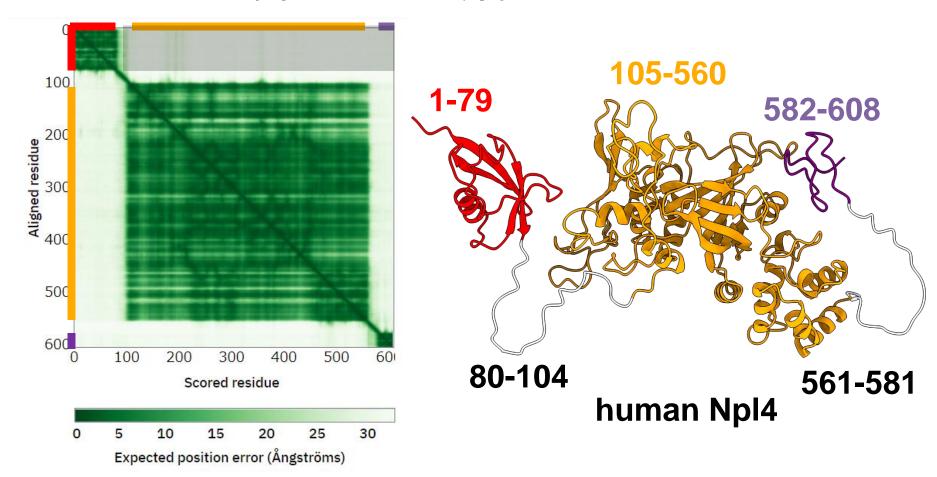


1-79番目の残基を見てみると、1-79番目の残基同士では その位置関係のずれの予測は小さい(濃い緑色) つまり、1-79は各残基の位置関係が正しいと予想されている。

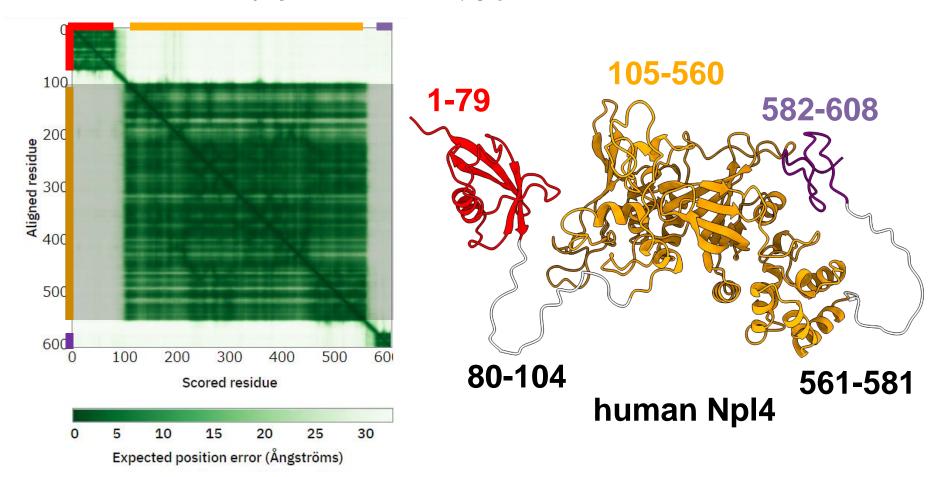


ちょっとわかりづらいかもなので補足説明。

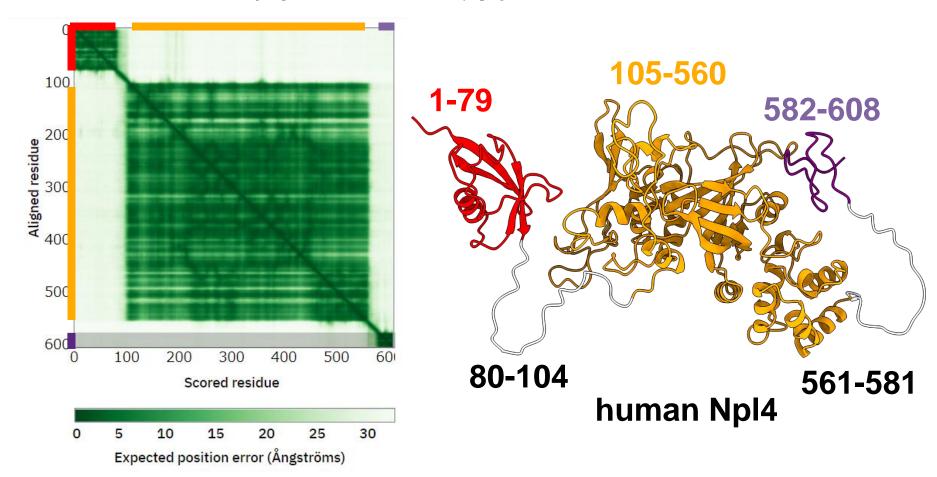
これは、1-79の任意の2つの地点の位置関係は常に予測の信頼性が高いという意味。位置関係がずれたりしないという事は、きっちりと折りたたまれた部分と見なすことができるという意味。2



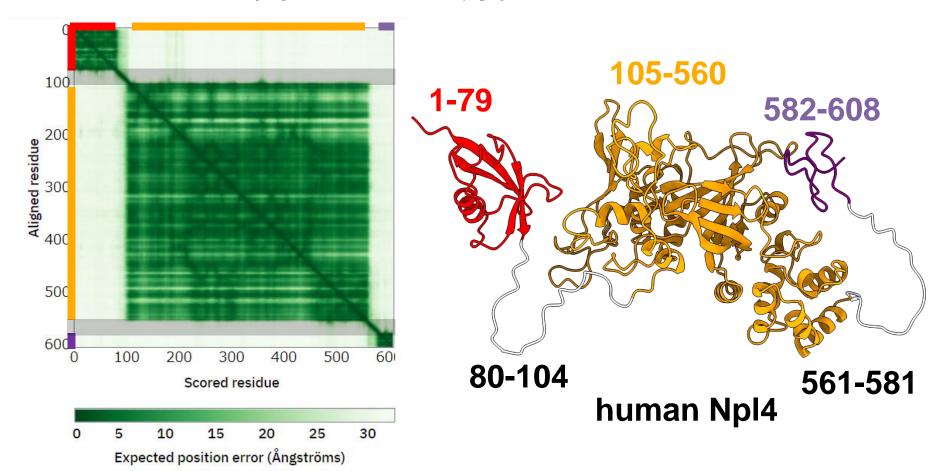
一方、もう一度1-79番目の残基を見てみると、80-600の残基に対し その位置関係のずれの予測は大きい(薄い緑色) つまり、1-79は他の領域との位置関係が信頼できない。 これは、1-79は他の領域に対してふらふらと動く事を意味する:3



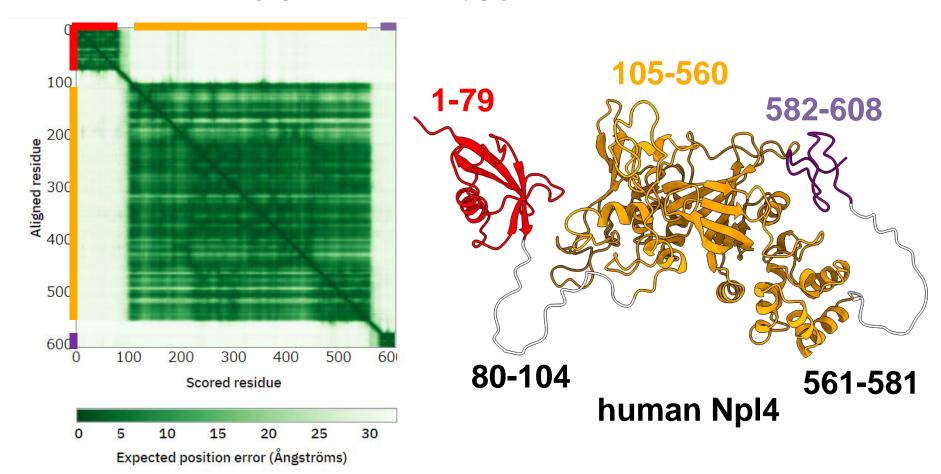
同様に105-560の領域を見てみると、105-560の領域同士でのみ、 その位置関係のずれの予測は小さい(濃い緑色) つまり、105-560の構造は正しいが、他の領域との位置関係は 信頼性にかけ、ふらふらと動くと予測されている。 14



同様に582-608の領域を見てみると、582-600の領域同士でのみ、 その位置関係のずれの予測は小さい(濃い緑色) つまり、582-608の構造は正しいが、他の領域との位置関係は 信頼性にかけ、ふらふらと動くと予測されている。 15



最後に、80-104や561-581の領域を見てみると、 x=y以外の領域に対して、全てずれの予測が大きい。 このような場合、他の領域に対しての位置関係はすべて 信頼性にかけ、構造をとらない紐状の領域と予測される。



以上をまとめると、

Npl4は3つの比較的固い部分(1-79, 105-560, 582-608)が 柔らかな紐状の部分(80-104, 561-581)で連結されている。 紐状の部分ふらふら動き、固い部分同士の位置関係は定まらない

#### 2. 自分でAlphaFold2を走らせる

Googleアカウント(無料)があれば、誰でも無料でインストールなしでAlphaFold2を走らせる事ができます。

※Googleアカウントについてはだれか詳しい人に聞いてみよう

なお、今回紹介する方法では実際の計算はネットで接続した Googleのサーバーで行うので、使用するパソコンのスペックは 低くても問題ありません

https://github.com/sokrypton/ColabFold ↑のURLへ移動したら、そのページから少し下に移動して、↓の表を探す

Making Protein folding accessible to all via Google Colab!

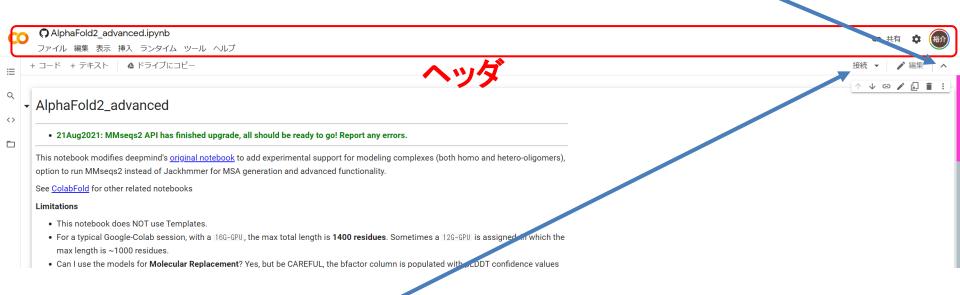
クリック→

	Notebooks	monomers	complexes	mmseqs2
>	AlphaFold2_mmseqs2	Yes	Yes	Yes
	AlphaFold2_batch	Yes	Yes	Yes
	RoseTTAFold	Yes	No	Yes
	AlphaFold2 (from Deepmind)	Yes	Yes	No

#### 最初にヘッダが表示されているか確認

まずヘッダを確認。ヘッダは普通表示されているはずだが、 表示されていなかったら、ここをクリックして表示させる

ヘッダが表示されていない時は、 矢印の向きが逆(V字型)になる事に注意



次に、ここの接続をクリックして、サーバーに接続する。 無料版では12時間の時間制限がある

#### 接続したらアミノ酸配列を入力するだけ



#### なお、アミノ酸配列はNCBIデータベースから持ってくる

https://www.ncbi.nlm.nih.gov/protein/



①調べたいタンパク質の名前や、 どの生物のタンパク質なのか、 といった情報を入力して、Search



②でてきた結果のタンパク質名や 生物名に注意して、選択。isoform というのはとりあえず無視してOK。 GenPept →

nuclear protein localization protein 4 homolog isoform sapiens]

NCBI Reference Sequence: NP\_060391.2
Identical Proteins FASTA Graphics

#### ③個別の結果のページに移動 したら、FASTAをクリック

nuclear protein localization protein 4 homolog isoform 1 [H sapiens]

NCBI Reference Sequence: NP\_060391.2
GenPept Identical Proteins Graphics

NP 060391.2 nuclear protein localization protein 4 homolog isoform 1 [Homo sapiens]
MAESIIIRVOSPDGWKRITATKRETAATFLKKVAKEFGFONNGFSVYINRNKTGEITASSNKSLNLLKIK
HGDLLFLFPSSLAGPSSEMETSVPPGFKVFGAPNVVEDEIDOYLSKODGKIYRSRDPOLCRHGPLGKCVH
CVPLEPFDEDYLNHLEPPVKHMSFHAYIRKLTGGADKGKFVALENISCKIKSGCEGHLPWPNGICTKCOP
SAITLNRGKYRHVDNIMFENHTVADRFLDFWRKTGNGHFGYLYGRYTEHKDIPLGIRAEVAAIYEPPOIG
TONSLELLEDPKAEVVDEIAAKLGLRKVGWIFTDLVSEDTRKGTVRYSRNKDTYFLSSECITAGDFONK
HPNMCRLSPDGHFGSKFVTAVATGGPDNQVHFEGYQVSNQCMALVRDECLLPCKDAPELGYAKESSSEQY
VPDVFYKDVDKFGNEITQLARPLPVEYLIIDITTTFPKDPVYTFSISONPFPIENRDVLGETQDFHSLAT

GQLPGLHEYGAVGGSTHTATAAMWACQHCTFMNQPGTGHCEMCSLPRT

④表示されているタンパク質の アミノ酸配列をコピーする

#### 配列を入力したら、あとは実行するだけ

2ページ前(この資料の20P)のように配列を入力したら、 ヘッダから「ランタイム」→「すべてのセルを実行」をクリック。 警告が出るが、安全なので無視して実行すればOK

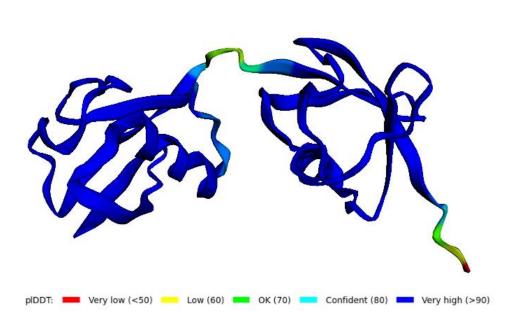
C	O AlphaFold2_advanced ファイル 編集 表示 挿入	d.ipynb ランタイム ツール ヘルプ 変更な	を保存できませんで	<b>ら</b> 共有 <b>な 後</b> 介
⊫	+ コード + テキスト	すべてのセルを実行	Ctrl+F9	✓ France RAM France
Q \\	<ul> <li>→ AlphaFold2_adva</li> <li>• 21Aug2021: MMseqs</li> </ul>	より前のセルを実行 現在のセルを実行 選択範囲を実行 以降のセルを実行	Ctrl+F8 Ctrl+Enter Ctrl+Shift+Enter Ctrl+F10	go! Report any errors.
	This notebook modifies description to run MMseqs2 instance  See ColabFold for other relations.	実行を中断 ランタイムを再起動 再起動してすべてのセルを実行	Ctrl+M .	pport for modeling complexes (both homo and hetero-oligomers), ced functionality.
	Limitations	ランタイムを出荷時設定にリセット		

あとは勝手に構造予測まで全部勝手にやってくれる。 タンパク質の長さによって違いますが1~2時間くらいかかるかも。 アミノ酸1000個を超える配列だと勝手に落ちてしまうかも。 22

#### すべて終わると自動でダウンロードされる

構造情報(.pdb)や、PAE(構造予測の正確性)など、 必要な情報はまとめて.zipファイル形式でダウンロードされますが、 ダウンロードされた構造を見るためには専用のソフト (PyMol、ChimeraX、無料)が必要なので、ちょっと難しいです。

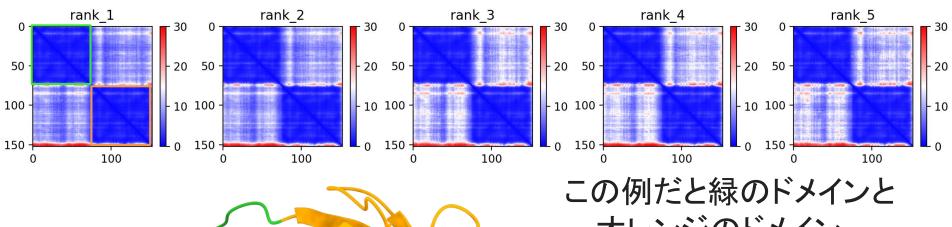
しかし、ダウンロードしなくても、配列を入力したページの画面を 少し下のスクロールすると、予測結果の構造が表示されています。

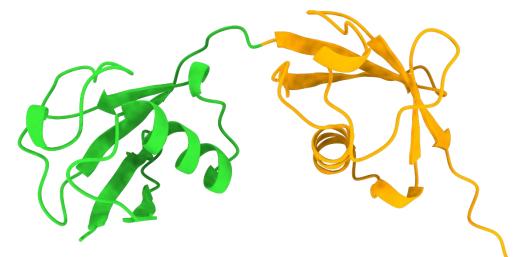


構造を左クリックで回転、 右クリックで拡大・縮小、 センタークリックで移動ができる。

青いところは構造予測が 正しいと考えられるところ、 赤や黄色は構造予測結果が 誤っていると考えられるところ

AlphaFold PDBと同様に、残基の位置関係の正確性を示す PAEも表示されている。ただし、色合いが違う点に注意。 また、初期設定では同じ構造を自動的に5つ予測するので、 PAEも5つ表示される。





この例だと緑のドメインと オレンジのドメイン、 それぞれのフォールドは 正しそうだが、 お互いの位置関係は 信頼できないので、 フラフラ動いてそう 24

### AlphaFold2の使い方まとめ

#### 1. AlphaFold Protein Structure Database (AlphaFold PDB)に掲載されたデータを見る

https://alphafold.ebi.ac.uk/

#### 2. 自分でAlphaFold2を走らせる

データベースにないタンパク質の場合は 自分でプログラムを走らせる https://github.com/sokrypton/ColabFold

タンパク質のアミノ酸配列は下記の NCBIデータベースから持ってくる https://www.ncbi.nlm.nih.gov/protein/

## おわりに

今回は、AlphaFold2を利用した構造予測方法について解説しました。

ここまで簡単に構造予測ができるようになると、今後構造研究は必要なのか?と考える人もいると思います。しかし、実は予測結果はタンパク質が起こす化学反応について詳細な議論をするためには正確性が足りません。

また、複数のタンパク質が組み合わさって仕事をする場合は予測精度が低く、タンパク質以外のDNAやRNA、小さな化合物についてはまったく予測できないという弱点があります。

したがって、今後の構造研究では、化学反応や、複数のタンパク質の組み合わさり方、化合物の認識を中心に行っていく必要があります。みなさんも興味があれば、大学で構造生物学を学んでみてください。